

# 英国 16 世紀の簿記書

吉澤 英一

キーワード：英国簿記史、16 世紀、英国簿記書

- 1 序
- 2 ヒュー・オールドカースル 1543 年版 幻の英国簿記書  
『有益な論文』
- 3 インピン簿記書の英訳書 1547 年版 簿記書  
『著名にして優れた著作』
- 4 ジェームス・ピール 1553 年版 簿記書  
『完全な勘定の方法と様式』
- 5 ジョン・ウェディントン 1567 年版 簿記書  
『簡単な教授』
- 6 ジェームス・ピール 1569 年版 簿記書  
『貸借勘定熟達への小径』
- 7 ジョン・メリス 1588 年版 簿記書  
『簡単な手引』
- 8 結び

## 1 序

20世紀末の1999年8月、LondonのKing's Cross 駅から列車でCambridgeに向かった。

ケンブリッジは、ロンドンの北約85キロ、ケム川のほとりにある大学都市であり、29のCollegeから成っている。

ジョン・メリス(John Mellis)は、1588年に英国簿記書『簡単な手引』(A Briefe Instruction)を書いた。

メリスは数学者であり、ケンブリッジのトリニティ・カレッジ(Trinity

College) のロバート・フォース博士の助手として働いていたが、その後パブリック・スクールの数学の教師となり、1564年以来、ロンドンのサウス・ワークのプライベート・スクールを経営した<sup>1</sup>。

私は、John Mellis が助手をしていた、Trinity College を訪問し、16世紀の英国簿記史研究のイメージ作りをしてきたのである。

2000年8月、British Airways で、成田から London に着き、そして、スコットランドの Edinburgh を経由して Aberdeen に向かった。

1567年に書かれた、ジョン・ウェディントンの『簿記論』は、1957年に世界でただ1冊、Aberdeen の Blairs College で発見された。

私は、Blairs College の中庭から澄みきった青空を眺めながら、英国簿記史研究のイメージ作りをしたと思った。

16世紀の英国簿記史を求めて旅立った私にはぴったりの雰囲気であった。

私は、ヤーメイ教授の言葉を信じて、ヒュー・オールドカースル、1543年幻の英国簿記書『有益な論文』が、21世紀には発見されるのではないかと思っている。

2001年8月、British Airways で、成田から London に着き、そして、スコットランドの Edinburgh に向かった。私の英国への旅は4回目であった。

1567年に書かれた、ジョン・ウェディントンの『簿記論』は、1957年に世界でただ1冊、Aberdeen の Blairs College で発見された。

現在は、1583年に創設されたエディンバラ大学の Old College の近くにある National Library of Scotland に保管されている。スコットランドの好きな私にとっては本当に夢のような話である。8月14日にこの図書館を訪問した。私は、1957年にヤーメイ氏がこの書物を発見したので、この簿記文献の原本に係員の人立ち会いのもとに見ることができた。本物の迫力はすごい、本当に感動した。世界で一冊しか発見されていない原本にめぐり逢えて本当に良かったと思った。

英国16世紀の簿記文献を求めて旅立った私にはぴったりの雰囲気であった。私は、1957年にヤーメイ氏がこの書物を発見して頂いたおかげで、21世紀に、この簿記文献の本物、原本にめぐり逢えたことに心より感謝する。

8月15日、Edinburgh を後にして列車で London に向かった。

8月16日、キングズ・クロス駅の近くにある British Library を訪問した。この図書館には、下記の原本が保管されている。

- 1、ジョン・メリスの簿記書『簡単な手引』John Mellis: A Briefe Instruction, 1588 ロンドンで出版 [1543年ヒュー・オールドカースル (Hugh Oldcastle) の『有益な論文』“A profitable treatyce” の復刻版]
- 2、ジェームス・ピールの『完全な勘定の方法と様式』James Peele: The maner and fourme how to kepe a perfecte reconyng, 1553 ロンドンで出版
- 3、ジェームス・ピールの第2作『貸借勘定熟達への小径』James Peele: The Pathe waye perfectnes, in th'accompte-sof Debitour, and Creditour, 1569 ロンドンで出版

私は、8月15日に、ジョン・メリスの1588年版簿記文献の原本とジェームス・ピールの1553年版簿記文献の原本を借りて読むことができた。

そして、8月16日に、ジェームス・ピールの1569年版簿記文献の原本を借りて読むことができた。

この三冊の簿記文献の原本は本当に、本物の迫力はすごい、本当に感動した。世界で僅かしか発見されていない原本にめぐり逢えて本当によかったと思った。英国16世紀の簿記文献を求めて旅立った私にはぴったりの雰囲気であった。

私は、この貴重な原本を貸してくれた British Library に対して心より感謝する。

又、英国16世紀の簿記文献の原本のうち下記のもの、別の図書館に保管されている。

- 4、インピン簿記書 Jan Ym-pyn Christoffels: Nieuwe Instructie, Nouvelle Instruction, 1543 の英訳本『著名にして優れた著作』A notable and

very excellent works, 1547

この簿記文献は、ロシアのレーニン図書館に保管されている。

- 5、ジョン・ウェディントンの簿記書『簡単な教授』John Weddington: A Breffe Instruction, 1567 アントワープで出版

この簿記文献は、スコットランドの National Library of Scotland に保管されている。

英国16世紀の簿記書をまとめると下記のとおりである<sup>2)</sup>。

- 1、1543年ヒュー・オールドカースル (Hugh Oldcastle) の『有益な論文』  
“A profitable treatyce”
- 2、インピン簿記書 Jan Ympyn Christoffels: Nieuwe Instructie, Nouvelle Instruction, 1543 の英訳本『著名にして優れた著作』A notable and very excellent works, 1547
- 3、ジェームス・ピールの『完全な勘定の方法と様式』James Peele: The maner and fourme how to kepe a perfecte reconyng, 1553 ロンドンで出版
- 4、ジョン・ウェディントンの簿記書『簡単な教授』John Weddington: A Breffe Instruction, 1567 アントワープで出版
- 5、ジェームス・ピールの第2作『貸借勘定熟達への小径』James Peele: The Pathe waye perfectnes, in th'accompte-sof Debitour, and Creditour, 1569 ロンドンで出版
- 6、ジョン・メリスの簿記書『簡単な手引』John Mellis: A Briefe Instruction, 1588 ロンドンで出版

1494年にルカ・パチオーリ『簿記論』が出版され、その影響はアルプスを越え、ドイツやオランダへ、海を渡って英国やアメリカへ、そして日本には、380年後の明治6年と明治7年に福澤諭吉『帳合之法』によって複式簿記が導入された。

これは、まさに簿記・会計世界一周論といえるのである<sup>3</sup>。

ここでは、1998年から2002年の5年間に、英国16世紀の簿記書を求めて英国に旅をしたまとめとして、英国16世紀の簿記書の概要について検討したいと思う。

## 2 ヒュー・オールドカースル、1543年版 幻の英国簿記書 『有益な論文』

The year 1543 was an eventful one in the history of bookkeeping, for it saw the introduction of Paciolo's work into three countries, translations of the *De Computis* appearing almost at the same time in Dutch, French, and English<sup>4</sup>.

1543年は、簿記の歴史上重要な年であった。なぜなら、パチョーリの著書が三つの国に紹介されたからである。すなわち、ほとんど時を同じくして、パチョーリ『簿記論』が、オランダ語、フランス語および英語に翻訳されたのである。

最初の二つの翻訳書については、前述したように1543年オランダのヤン・インピン・クリストッフエル (Jan Ympyn Christoffel) がアントワープでオランダ語訳およびフランス語訳を出版した。

The English translation of Paciolo also appeared in England in 1543. It was written by Hugh Oldcastle, a teacher of arithmetic and is the first treatise on bookkeeping in language of which we possess any record<sup>5</sup>.

最後の英語訳も同年に出版されたが、それは、当時数学の教師であったヒュー・オールドカースル (Hugh Oldcastle) によって書かれたものであって、われわれの所有する記録の範囲では、英語で書かれた最初の簿記文献である。

ウルフは、パチョーリ簿記論の翻訳とみなされる1543年の英国簿記書というものは、ヒュー・オールドカースルのもので、それは英国における最初の英語で書かれた簿記書であると述べている。

しかし、遺憾ながらオールドカースルの原典は現存していない。そこでわれわれは、彼に関しては、当時「学校の教師」と自称していたジョン・メリス (John Mellis) によるリプリントから推定するのである。

英国で最初の簿記書だといわれる、1543年ヒュー・オールドカースルの『有益な論文』“A profitable treatyce”は、今日は何処にも見出しえない「幻の書」であるが、しかしその存在が明確にされた契機は、1588年に、当時ロンドンの算術教師であったジョン・メリスの簿記書『簡単手引』John Mellis: A Briefe Instruction and maner how to keep books of accompts after the order of Debitor and Creditor, & as well for proper accompts partible, etc., 1588 の序文「読者へ」To the Reader のところにあった。メリスは、そこで簿記書出版の理由を述べた後に、彼の簿記書は、オールドカースルのそれに基づいたものであることを、次のように書いている。「この作品を私自身の労力と勤勉の結果として伴って出版する積もりがないことは確かである。実際に、私は、1543年8月14日に、ここロンドンで印刷された一冊の昔の古い書物の、単なる更新者・復活者にすぎないからである。その書物はヒュー・オールドカースルという一人の学校教師が蒐集し、出版し、つくり、公にしたものである。この論文で知られるように、彼は聖オレイヴス教区マルク小路で算術とこの書物を教えていたのである<sup>6)</sup>」。

これによって、オールドカースルの簿記書が1543年に出版されたことがわかるが、しかし、メリスはここでは、その書名は書いていないのである。

ヒュー・オールドカースルの簿記書の内容についての検討は、(この簿記書は十八世紀後半までは残存していたと言われている。)それが現存しないため

に、その後出版された多くの簿記書の影響をうけてメリスが拡大・修正を施したという、彼の簿記書『簡単な手引』によって推測するしか方法はない<sup>7</sup>。

オールドカースルの幻の簿記書とパチョーリ簿記論との関係は、7のところで、メリス簿記書の内容を検討し推測する事にする。

### 3 インピン簿記書の英訳書 1547年版 簿記書 『著名にして優れた著作』

インピンのオランダ語簿記書は死後、妻の手で1543年にアントワープで出版され、同年にフランス語訳簿記書も出版された。これは英国のヒュー・オールドカースルの簿記書出版と同じ1543年である。これらの簿記書は、オランダ・フランス・英国における最初の複式簿記教科書となっている。この4年後に、インピン簿記書はフランス語の訳本から、英訳書が出版された。これは英国で出版されたと思われるが、出版者と英訳者が共に不詳で、英国の図書目録にもなく、英国ではこの原書は発見されていない。

インピン簿記書の1547年版英訳書は、1893年にバルグ博士によりエストニヤ共和国のニコライ高校でただ1冊発見され、1917年までここで保管されていたが、その後一時行方不明となっていた。しかし1910年に、当時モスクワ在住のバウエル博士がその写本を作成していた。

1963年に、ヤーメイ教授によって、レーニン図書館の所蔵本が一時行方不明とされていた英訳本自体であることが明らかにされた。誠に不思議な運命の書である。しかし、ここで注目すべきは、英訳本がエストニヤで発見されたという点である。エストニヤは西はバルト海に臨み、北はフィンランド湾に面した土地であるが、この英語簿記書が、北海沿岸の諸都市を越え、深くバルト海の奥地にまで流れてきたのは、この地を訪れた英国商人達が持ってきたものであろう<sup>8</sup>。

この英訳書には、英訳者の「読者への序」、次に原著者インピンの「序」、全体の構成（第1部手引き書と第2部記帳例題に分けること）、第1部の各章別の内容目次を示した後、第1章「総論」に入り、第29章「簿記法修得の必

要性」で終わっている。

第2部の記帳例題は翻訳していない<sup>9</sup>。

#### 4 ジェームス・ピール 1553年版 簿記書 『完全な勘定の方法と様式』

ジェームス・ピール『簿記論』の構成<sup>10</sup>

##### (1) タイトルページ

ジェームス・ピール1553年版の簿記書は、英国で3番目の簿記テキストとしての榮譽を担った *The maner and fourme, 1553* 『完全な勘定の方法と様式』である。このタイトルページには著者名は書かれていないが、「献呈の辞」の標題の最後に、James Peele wisheth health and prosperous successe in all affaires と書いており、著者がジェームス・ピールであることがわかった。

この簿記書の印刷は、最初 Richard Grafton リチャード・グラフトンであったが、グラフトンは Lady Jane Grey を女王とする公示を印刷した廉でメアリー女王の復讐を受けたので、この簿記書はタイトルページのみがグラフトンの印刷である。残りは、当時組合を作って旧教の書物を印刷していた J.Kingston キングストンと H.Sutton の2名が印刷したのである。

##### (2) 内容目次 本書の構成

タイトルページの裏面に、内容目次を示して、この簿記書の構成を書いている。第1部は、「献呈の辞」、「読者への序」に続いて、「本文 (The Instruuccions) 1章～11章」に簿記法の解説を書いている。第2部は上記の説明に対する諸帳簿の記帳例を示している。それは、「十字架仕訳帳」・「十字架元帳」、「A号元帳」・「A号仕訳帳」等から成り立っている。ただし、各紙葉ごとにページ番号は示していない。なお第1部はわずか10紙葉であり、そのうち本文はほんのわずか16ページである。これに対して第2部は76紙葉から構成されている。



第 1 部 本文	第 2 部 諸帳簿
第 1 章 総論	十字架仕訳帳
第 2 章 財産目録	十字架元帳
第 3 章 3 帳簿制	A 号元帳
第 4 章 仕訳	A 号仕訳帳
第 5 章 元帳	
第 6 章 他ページ繰り越し	
第 7 章 元帳締め切り前	
第 8 章 元帳締め切り	
第 9 章 旧元帳から新元帳	
第 10 章 組合取引	
第 11 章 秘密元帳	

### (3) 「献呈の辞」

「献呈の辞」は、一葉表面に、The Marchantes Adventvrers (マーチャント・アドベンチャーズ) の総裁の To The Right worshipfvl Sir William Densell Knight デンゼル卿とその組合員に捧げられている。デンゼル卿は、有名なトマス・グレシャムの前任者として、1551年アントワープ駐在の英国財務官になった人物である。

この「献呈の辞」は、ペルシャ王、キリストと貧女の偶話をもちだすなど、冗長ではあるが、きわめて文学的才能をひらめかした文章である。

### (4) The Preface 「読者への序」

The Preface 「読者への序」は、二葉表面に書かれている。

英国の世界貿易拡張期を背景として、ジェームス・ピールの簿記書が生まれたのである。「共通の利益」のために、「祖国に対する愛と熱情」により、「労苦」の結晶として生み出された簿記書を、ジェームス・ピールがマーチャント・アドベンチャーズに捧げたのも、当時の情勢がもたらしたものである。

## (5) The Instruuccions 本文の構成

本文の構成は、二葉裏面に書かれている。「献呈の辞」と「読者への序」の前文に続いて、簿記の方法を説明する The Instruuccions 本文に入る。Necessary Rules or obseruacions of remembraunce to be practised of a faithfull keper of his accoumpte 「忠実な会計係に必要な諸規則」というタイトルで、第一章から第十一章に分かれていて、16ページにわたって書かれている。

第一章総論は、勘定をつけるには、読みやすく書く、完全に計算する、正しい記帳を持つ、手形・契約書又は諸法令等自己の責任にゆだねられたものには用意周到であらねばならぬこと等を、且つそれと関連して、手形・手紙の整理、手紙帳・書類箱の設置の必要性を説明している。

## (6) 「簿記法学習の奨め」

本文の終わりに、簿記法学習の奨めについて、高尚な韻文で書かれている。ジェームス・ピール自身の生涯やその社会的地位、その他に関しては、この簿記書からはわからない。ジェームス・ピールの誕生・死亡の年は不明であるが、エリザベス朝の有名な劇作家であり、詩人、俳優でもあったジョージ・ピール George Peele (1556-1598) を長男に持ち、ジェームス・ピール自身も二つの劇作を書いた、文学的才能が豊かな人物であったといわれている。こうしたジェームス・ピールの才能のひらめきは、簿記書のいろいろな所で書かれている。

## (7) 「守るべき規則」

記帳例である仕訳帳の最初のページに、これも又高尚な韻文で書かれている。ここでは、仕訳の法則が述べられ、記帳に先立ち受け取り、支払いに先立ち記入すべきことが注意されている。

## (8) 諸帳簿のタイトル

## 第2部 諸帳簿

十字架仕訳帳	A号元帳
十字架元帳	A号仕訳帳

## 5 ジョン・ウェディントン 1567年版 簿記書 『簡単な教授』

### 1、原書の発見と保管場所

2000年8月、British Airways で、成田から London に着き、そして、スコットランドの Edinburgh を経由して Aberdeen に向かった。

1567年に書かれた、ジョン・ウェディントンの『簿記論』は、1957年に世界でただ1冊、Aberdeen の Blairs College で発見された。

私は、Blairs College の中庭から澄みきった青空を眺めながら、英国簿記史研究のイメージ作りをしたいと思った。16世紀の英国簿記史を求めて旅立った私にはぴったりの雰囲気であった。

英国の簿記文献は、いく冊かの革新的そして興味ある作品を含んでいる。初期の例では、私がすでに言及したジョン・ウェディントン、そしてジェームス・ピールである。1567年に、アントワープで出版されたウェディントンの本は興味深い。なぜなら、例えば、いかに仕訳帳は一連の細分化された取引のための、最初の特種な帳簿になり得るかを示し、例題化しているからである<sup>11</sup>。

1954年以来の最も意義ある発見は、1567年にアントワープで出版されたジョン・ウェディントンの『簡単な教授』のコピーである。その本の出版の事実は知られていた。しかし1957年にアバディーンでコピーが発見されるまでは、今世紀までコピーが現存していたとは考えられなかった。そしてその内容は驚くべきことであった。なぜなら、1543年のオールドカースルの文献のコピーがまだ存在し、光を浴びるかもしれないという望みを、我々に与えてくれるからである<sup>12</sup>。

私は、ヤーメイ氏の言葉を信じて、ヒュー・オールドカースル、1543年幻の英国簿記書『有益な論文』が、21世紀には発見されるのではないかと思っている。この大きな夢に向かって、スコットランドの Aberdeen に行ったのである。

1912年に出版された、アーサー・H. ウルフ『会計史』<sup>13</sup>の16世紀、英国における簿記文献の中には、1567年に書かれた、ジョン・ウェディントンの John Weddington: A Breffe Instruction, 1567、アントワープで出版された『簿記論』は紹介されていない。この文献は1957年に世界でただ1冊、Aberdeen の Blairs College で発見された為、1912年当時はまだ発見されていなかったのである。

ジョン・ウェディントンの簿記書 John Weddington: A Breffe Instruction, 1567 は、アントワープで行われていた当時の簿記法、帳簿組織、会計帳簿の配置を中心として説いたもので、特殊仕訳帳制の萌芽形態を示すものといわれている。この英国第4番目の簿記書は、ロンドン市民で、アントワープに長らく在住した商人であった、ジョン・ウェディントンによってアントワープで出版されている。

この書物は1567年にアントワープで出版され、図書目録の上では早くから知られていたが、実物の存在は、どこにも知られていなかった。

しかし、1957年に、スコットランド北東部にある、北海に臨む商工業都市 アバディーン Aberdeen のブレアス・コレッジの図書館 Library of Blairs College でヤーメイ教授によって発見されたのである。教授は発見の翌年、雑誌 “Accounting Research,” April, 1958. Volume 9, No.2 に、その研究成果、“John Weddington’s A Breffe Instruction, 1567” なる論文を発表した<sup>14</sup>。

私は、1957年にヤーメイ氏がこの書物を発見したので、21世紀、2001年8月14日、スコットランドの Edinburgh にある、現在の保管場所である、National Library of Scotland でこの簿記文献の原本を係員の人立ち会いのもとに見ることができた。本当に感動した、本物の迫力はすごいと思った。世界で1冊しか発見されていない原本にめぐり逢えたことに心より感謝する。

## 2、原書の概要<sup>15</sup>

### (1) タイトルページ

ジョン・ウェディントン『簿記論』のタイトルページは、図案化した草模

様で周囲を縁取り、中央に長方形の図案、更にその中に楕円形の図案が印刷されている。年号 M.D.LXVII は、1567年であり、この年号と図案の間、丁度タイトルページ真ん中に、The trevvtthe sekethe no corners. 「真理は隠れ家を求めない」と諺が書かれている。

この印刷は、Lady Church アントワープの大聖堂ノートルダム寺院近くの the golden Sonne 「金色の太陽」の標識のある Petter van Keerberghen (ピーター・ヴァン・ケールベルゲン) によって行われた。

### (2) 二匹の天馬

タイトルページの裏面に、二匹の天馬が対立した、The Marchantes Adventvrers Armes. (マーチャント・アドベンチャーズ) の盾の形の紋章が中央に表示されている。

### (3) 献呈の辞

1 葉表面に、The Marchantes Adventvrers Armes. (マーチャント・アドベンチャーズ) の総裁への To The Right VVorshipvl Maister Ioh-an Marche 「献呈の辞」がかかれたものである。

### (4) 読者に対する言葉と総ての商人に対する良き教訓

1 葉裏面、上半部に To The Gentle Reader. 「読者に対する言葉」が書かれている。I.W.は John Weddington 著者名の略字である。

又、下半部は詩の形式で、A Good Doctrine for all marchantis. 「総ての商人に対する良き教訓」が示されている。

当時の商人達の宗教心のあらわれがみられると同時に、現金収支の記帳に対する用心深さは、今も昔も、変わらないことがわかる。

ジョン・ウェディントン『簿記論』では、「献呈の辞」1 葉表面からの各ページには、上端に年号を表記し、その頭部に十字架をつけて、+M.D.LXVII (1567年) と書いている。

### (5) 商人の守るべき 7 つの規則

第 1 に、商人は商品の知識、読み書き算盤 (計算) の知識が必要であり、帳簿記入の最初には十字架を記入すべきこと。

第2に、商人は総ての自己の行為と書き付けに責任を持ち、他人を信用してだまされないこと。

第3に、主人または一番番頭は常に元帳の要約である A breffe ballans (簡単な残高表) を備えておくこと。

第4に、会計室は静粛にし、帳簿・インク・封蝋・ペン・ペーパーナイフ等の文房具品を備えて置くこと。

第5に、総ての支払手形・契約書・約手書は美しい用紙に綴り、その上に支払関係者の氏名を記入し、期限到来まで、帳簿の上で保つか、又は金庫に保管して置くこと。

第6に、代理人・組合員・その他の人達の手紙は、受付の日付・差出人・返事を出した日付を手紙の上に記録して保管して置くこと。年に一度、総ての人達の手紙を取り出して用紙に包んで、その表紙の上に番号と差出人の名前を記入しておき、自分の会計室又は他の部屋に保管して置くこと。

第7に、元帳は美しく、正確に記入し、時々更新すべきである。

これらの事は大変重要だが、次にここでは、商業帳簿の会計法について指針を与えようと思う。

第1に Wast Boke or Memorial (日記帳) を、次に Great Boke or Lidger (元帳) をわかりやすく説明していく。

### 3、分割日記帳<sup>16</sup>

上記のような、3ページにわたる序論の次に、日記帳からはじまり、具体的な簿記法の説明をしている。その際、ジョン・ウェディントン<sup>16</sup>は簿記書の取引記入例は、アントワープ在住のロンドン商人 Thomas Lane (トーマス・レイン) の帳簿であると想定し、1567年8月25日からはじまり同年11月27日で帳簿を閉じているのである<sup>17</sup>。

#### (1) 「日記帳の説明」

説明の最初で、日記帳は商人と使用人達が行った一切の営業取引を記入する帳簿であると通常のように述べているが、この日記帳の根本的な特徴は、

それは従来のように仕訳帳に先行する単なる取引日誌・覚え帳ではなく、この日記帳から直接、元帳へ転記される原始帳簿で、それは単一の帳簿ではなく、記入する取引の性質によって数部又は数冊に分割されているのである。

小規模な事業の場合は、1冊の日記帳を数部に分割して使用してもよいが、大規模な事業の場合は、数冊の日記帳を使用すると述べている。

この日記帳分割の目的は、多数の使用人による記帳事務の分担である。これらの各分割日記帳から元帳に直接、転記を行うから、仕訳帳を使用する必要がない。これまでの日記帳から仕訳帳、そして元帳へというイタリア式帳簿組織の煩雑さを回避し、元帳へ転記のための単一の総合的仲介手段としての仕訳帳を排除することによって、記帳事務の簡略化・記帳労力の節約をはかっている。

ジョン・ウェディントンより以前又は同時代の簿記文献では、日記帳から仕訳帳、そして元帳へというイタリア式帳簿組織と、家計費帳・小売り帳のような補助簿の使用はみられたが、ジョン・ウェディントンの分割日記帳から元帳へという帳簿組織は、まだ述べられていなかったのである。

この帳簿組織を中心とした記録計算法に、ジョン・ウェディントンの専門的な努力が注がれたのである。

(2) 分割日記帳、12項目の内容の目次 ( ) は紙葉数

第1に、棚卸しの方法。(4葉)

第2に、アントワープにおいてあらゆる人々に対する現金の受払。(6葉)

第3に、総ての人の勘定と勘定の交換及び、あらゆる場所の交換による現金の受払。(15葉)

第4に、ロンドンその他の場所からの手形。(17葉)

第5に、あなたの計算で、又は他人の為に行った商品の売買。(18葉)

第6に、ロンドンその他から受け取った商品送り状の写し。(21葉)

第7に、ロンドンその他へ送った商品送り状の写し。(23葉)

第8に、他人と組合を組んで、アントワープで売買した商品の計算書の写し。(25葉)

第9に、あなたの組合員、代理人又は召使いがあなたの為に、あなたの勘定でロンドンで売買した商品の計算書の写し。(30葉)

第10に、記憶しておく必要な一切のものの記録。(32葉)

第11に、あなたがロンドンその他へ送った手紙の写し。(34葉)

第12に、組合契約書・船荷証券・売り渡し証書等の形式。(35葉)

これらの12項目については、分割日記帳が12種類設定されている。

12項目の下に Note (注記) として、元帳 A 及び B のアルファベット順の索引を設け、続いて元帳の記帳指導と元帳記入の実例を示すと書いてある。

この文献のページ構成は、下記の通り125紙葉250ページである。

1. 標題と序論 3紙葉
2. 分割日記帳 12種類 35紙葉
3. 元帳 A 及び B アルファベット順 索引 23紙葉
4. 元帳 A 43科目 47紙葉
5. 新元帳 B 繰越16科目 17紙葉

#### (1) 財産目録

##### ① 棚卸しの方法。

財産目録には、営業開始の時の資産・負債が、現金、貴金属、宝石、土地、家屋、什器、商品、債権、債務の順番で記入されている。この財産目録の帳簿から元帳の該当する各勘定の借方と貸方、そして資本金勘定の貸方と借方へ転記されている。内訳金額欄と合計金額欄がある。財産目録には、現金は各種類ごとに詳しく記入されているが、元帳の現金勘定へは、各種貨幣の合計金額で転記されている。又、この財産目録では、資産から負債を差し引いて、正味有高の資本金を算出して表示するようなことはしていない。

#### (2) 現金帳

##### ② アントワープにおいてあらゆる人々に対する現金の受払。

現金帳 The Journal of the Chest は、金庫 Chest の内容を表す現金の出納を記入する帳簿である。この現金帳では、現金の受払だけでなく、債務の振り替え assignments of debts をも記入している。



## (3) 交換帳

- ③ 総ての人の勘定と勘定の交換及び、あらゆる場所の交換による現金の受払。

交換による取引帳である。

## (4) 手形帳

- ④ ロンドンその他の場所からの手形。

手形による取引帳である。

## (5) 仕入・売上帳

- ⑤ あなたの計算で、又は他人の為に行った商品の売買。

仕入・売上帳である。

(6) (7) (8) (9) 組合、代理人等による取引の帳簿

## (6) 種々の組合・代理人等

- ⑥ ロンドンその他から受け取った商品送り状の写し。

## (7) 種々の組合・代理人等

- ⑦ ロンドンその他へ送った商品送り状の写し。

## (8) 種々の組合・代理人等

エディの代理人としての商品仕入れ

- ⑧ 他人と組合を組んで、アントワープで売買した商品の計算書の写し。

## (9) トーマス・レイン

- ⑨ あなたの組合員、代理人又は召使い人があなたの為に、あなたの勘定でロンドンで売買した商品の計算書の写し。

(10) (11) (12) その他の書類 (元帳に転記しない日記帳)

## (10) 市帳

- ⑩ 記憶しておく必要な一切のものの記録。

## (11) 手紙 トーマスよりリチャードへ

- ⑪ あなたがロンドンその他へ送った手紙の写し。

## (12) 契約書等の記載例

- ⑫ 組合契約書・船荷証券・売り渡し証書等の形式。

この3種類は、会計帳簿ではないが、商人が取引をする上で、整理し保存するものとして、日記帳のなかに加えている。

このような、日記帳の分割状況から、仲介貿易の中心地としてのアントワープにおける商人の複雑な取引の様子が推定できる。

上記の分割日記帳から元帳への転記は、分割日記帳の各取引ごとに、その取引記入の文章の下に、今までと同じく分数式で、借方勘定の元帳丁数番号を分子に、貸方勘定の元帳丁数番号を分母として表示している。元帳への転記が完了した時点で、各数字の右横にペンで線をひくのである。

財産目録の現金を例にあげると、下記の通りである。

In the great Boke	A	2	Debitor
		1	Creditor

これは、分割日記帳としての財産目録の帳簿から、直接、元帳Aの現金勘定の借方と資本金勘定の貸方へ転記したという意味になるのである。

仕訳の形式で表現すると、下記の通りである。

(借方) 現金 1137.4.8.                      (貸方) 資本金 1137..8.

現在の特殊仕訳帳制では、1ヶ月ごとに、一定期間ごとに元帳の各勘定に一括転記を行っている。

ウェディントンの分割日記帳では、1取引ごとに元帳へ個別転記をしている。(上述の8と9の分割日記帳を除く)。従って、元帳への転記関係を示す分数式は、分子分母はそれぞれ1つずつである。

ウェディントンは、各分割日記帳から元帳への転記について、下記の通り述べている。

現金帳 The Jornal of the Chest の最初の説明文では、現金取引のような日常取引は、取引が多い場合には、日常の各取引ごとに現金帳から元帳に転記する時には、必要以上に元帳の紙葉の消費が速くなるから、現金帳から、一応、イタリア人が The boke of the pourse と名前の別の帳簿に記入した後、そこから時々、元帳へ一括転記するのがよいとしている。

商品の仕入れ・販売にも同じ考え方を適用して取引が多数の場合は、分割

日記帳の仕入・売上帳 The Boke of byinge and sellinge の外に、市帳 Fayre Boke を設けて、仕入・売上帳から一応これに記入した後、これから一日ごと、週ごと、また、月ごとにも元帳に一括転記すべきことを、仕入・売上帳説明の時にすすめている。

#### 4、総勘定元帳<sup>18</sup>

ウェディントン は、分割日記帳の次に、元帳 A と元帳 B のアルファベット順 (23葉 白紙含む) による勘定索引を示した後、元帳 A The Great Boke or lidger sygnyd withe A で、各勘定への記入と新元帳 B への繰り越し記入を説明、例示し、最後に元帳 B の開始記入を示して終わっている。帳簿の繰り越し記入には、旧・新両帳簿に残高勘定を用いている。

元帳は左右対照ページに借方・貸方を設け、両者のページに同一丁数番号を付け、各ページの上端横線の下中央に十字架を付けてローマ数字で年号を記入している。各ページの左端の欄は数量欄である。英語の簿記書としてこの欄の使用は、ウェディントンが最初であるといわれている。

各ページ右端の 3 欄は金額欄であり、その左隣は元帳における相手方勘定丁数番号欄で、中央の広い空白が取引の摘要記入欄である。

取引の月・日は摘要文中に記入している。また、この時代の慣習に従って、勘定の借方・貸方のそれぞれ合計を、摘要欄中央に、アラビア数字を一貫して用いている点では、英国簿記書としては、ウェディントンの書物が最初である。更にウェディントンは、元帳記入の注意として、誤謬・抹消はしないで、非常に美しく記入する為に、変化を避けて 1 人の手で記帳すべきだと述べている。

勘定間の繰り越し振り替え及び新旧元帳繰り越し手続きにおいて、ウェディントンは、これらを仕訳帳に仕訳記帳することは述べていない。ウェディントンは、分割日記帳から元帳へ転記する、そこには一般仕訳帳は 1 冊も存在しないのであるから、こうした繰り越し振り替え記帳には一切、仕訳記入を要しないことになる。現在、特殊仕訳帳制において使用される、一般仕訳

帳、または総括仕訳帳はまだ用いられていないのである。

この文献の元帳ページの構成は、下記の通り125紙葉250ページである。

1. 標題と序論 3紙葉
2. 分割日記帳 12種類 35紙葉
3. 元帳A及びB アルファベット順 索引 23紙葉
4. 元帳A 43科目 47紙葉
5. 新元帳B 繰越16科目 17紙葉

(1) 元帳Aと元帳Bのアルファベット順(23葉 白紙含む)による勘定索引

(2) 元帳 A (47葉) 43科目

- 例 1. 資本金 左ページ 借方 右ページ 貸方  
2. 現金 左ページ 借方 右ページ 貸方

(3) 新元帳 B (17葉) 16科目

- 例 1. 残高勘定  
2. 資本金 貸方 2313. 8. 4  
3. 現金 借方 1610. 3. 4

## 6 ジェームス・ピール 1569年版 簿記書 『貸借勘定熟達への小径』

ジェームス・ピールの1553年版『完全な勘定の方法と様式』に比べて、16年後の1569年出版された第2作『貸借勘定熟達への小径』は非常に進歩を示した簿記書だと一般にいられている。この書は技巧的で、教師と生徒との対話形式をとってはいるが、それ以前の簿記解説書に対しては勿論、1553年版に比べて非常に進歩を示していることと、この書がウェディントン1567年版簿記書の影響を受けていることは明らかである<sup>19)</sup>。

この原書は、426ページ書かれており、タイトルページの次に「内容目次」が書かれて、原書の構成内容を示している。ただし各項目のページ番号は附されていない。前半部分は、「謹呈の辞」、「序文」、「商人と教師との対話——貸借の方法による会計の偉大なる便益を述べる。」「教師と生徒との対話——

貸借簿記法の説明」が、64ページにわたり書かれている。

後半部分は、「教師と生徒との対話」による簿記法の解説に伴う、取引例に基づいた記帳例、「財産目録帳」、「仕訳帳A」、「元帳A」、「元帳B」、「主人の私的勘定に関する財産目録帳」、「主人の私的勘定に関する財産目録帳に付帯する元帳」の部分から成っている。ページの残余を後半部分の記帳実例に用いている<sup>20</sup>。

## 7 ジョン・メリス、1588年版 簿記書 『簡単な手引』

ジョン・メリス、1588年版 簿記書『簡単な手引』のタイトルは下記のとおりである。

John Mellis: A Briefe Instruction and maner how to keep books of accompts after the order of Debitor and Creditor, & as well for proper accompts partible, etc., 1588

1494年に出版された、ルカ・パチオーリ『簿記論』の英語訳は1543年に出版された。それは、当時数学の教師であったヒュー・オールドカースル (Hugh Oldcastle) によって、英語で書かれた最初の簿記文献であると言われている。このオールドカースルの原書は現存していない「幻の簿記書」である。この原書については、当時「学校の教師」と自称していたジョン・メリス (John Mellis) によるリプリント、1588年『簡単なる手引』から想像するのである。

メリスは数学者であり、ケンブリッジのトリニティ・カレッジ (Trinity College) のロバート・フォース博士の助手として働いていたが、その後パブリック・スクールの数学の教師となり、1564年以来、ロンドンのサウス・ワークのプライベート・スクールを経営した。

メリスの著書のタイトルは、『簡単な手引』(A Briefe Instruction) であるが、この題名によって、この著書が独創的なものであるという印象を与える。しかしメリスは、「読者へ」と題する書簡の中で、自分は「1543年8月14日、学

校の教師であったヒュー・オールドカースルによって収集され、ロンドンで出版された古いコピーの再生者にしかすぎない」と、素直に述べている。

メリスの著書の大部分は、疑いもなくパチョーリの単なる翻訳者であったオールドカースルの著書を更新したものにすぎなかった。オールドカースルの翻訳書の終わりには、“Finis”（結論）という文字がつけられているが、メリスはさらに一般財産目録についての例をあげて、次のように述べている。

「ここで私の著述を終わるが、これらの諸規則をさらに一層理解しやすく、かつ実用に役立たせるために、私は次のように仕訳帳、元帳および簡単な財産目録を加えた」<sup>21</sup>。

ジョン・メリス、1588年版 簿記書 『簡単な手引』<sup>22</sup>

#### a. 財産目録

##### 第1章 「仕訳帳・元帳による記録秩序と商人の必要事項」

- 2 「財産目録の作成と意義」
- 3 「財産目録の形成と記入法」
- 4 「商人に関する訓戒」

#### b. 処理

- 5 「処理・三主要簿記」
- 6 「日記帳」
- 7 「日記帳の記入法」
- 8 「九種の商品取引法」
- 9 「仕訳帳」
- 10 「仕訳帳への取引記入、借方・貸方」
- 11 「元帳」
- 12 「仕訳帳より元帳への転記」
- 13 「元帳勘定記入法」
- 14 「商品勘定の記入法」
- 15 「航海取引の記帳法」

- 16 「組合会計」
- 17 「経費の処理」
- 18 「損益勘定」
- 19 「元帳勘定の繰越記入」
- 20 「誤謬訂正法」
- 21 「帳簿の締切りと検証・照合」
- 22 「帳簿締切中に生ずる取引の記入法」
- 23 「小売店の会計」
- 24 「手紙、書類の保管・整理」
- 25 「要約」

上記の第25章「要約」は、第1章から第24章までの各章の要約である。この内容は、ルカ・パチョーリが第36章「元帳記入上の規則」で要約として示した17項目とほとんど同じある。メリスの要約13項目を下記に示す。

#### 第25章「要約」<sup>23</sup>

1. 元帳では左側借方・右側貸方を記す。
2. 取引はすべて複記入される。
3. 取引は借方、貸方の適切な場所に日付・金額・原因を含み記入すべきである。
4. 借方最後の金額は、貸方最初の金額でなければならない。
5. 借方記入したその日に貸方記入をせねばならない。
6. 一枚の紙葉を、その真中から2つに割り、借方勘定の残高と貸方勘定の残高を左・右に集めて、元帳の残高試算表をつくる。貸・借両合計金額が相等しなければ元帳は正しい。
7. 現金勘定は常に借方残である。そうでなければ勘定に誤謬がある。
8. 相手の承諾なくして、彼を債務者としてはならない。又許可なくして制限・契約を債権者につけてはいけない。

9. 元帳では一種の貨幣で記さねばならぬ。
10. 現金勘定の記入は簡単に、某日に某人にというだけでよい。
11. 新しい勘定は新しい頁に設ける。勘定を誤記入した時は、誤謬記入と反対記入をして、その欄外に十字架記号又はマークを付しておく。
12. 記入場所が一パイになり、残高を新場所へ繰り越すには、残高の生ずる側と反対側に記入し、欄外にRの文字をつける。又、この残高は新勘定の欄外にRをつけて繰越記入をする。
13. 旧元帳から新元帳へ繰越・更新する時は、先ずBなる記号を新帳簿の表紙に印し、次に旧帳を十分に検討し、旧帳貸借残高の写しを、あなたの新帳の借方・貸方に貸借平均するように移す。

パチョーリ・メリスの各章対応関係と、パチョーリにはあつてメリスにはない各章を示せば下記のとおりである<sup>24</sup>。

パチョーリ	メリス
第7章 「役所の証明」	なし
17 「官庁との会計」	〃
18 「ヴェネツィア財務局との会計」	〃
19 「為替手形及び銀行による支払方法」	〃
20 「商品交換取引」	〃
24 「銀行に関する会計」	〃
25 「収入及び支出勘定」	〃
30 「計算書の作成」	〃
34 「元帳勘定の締切と合計試算表」	〃

1588年 ジョン・メリス 英国簿記書『簡単な手引』の原書、1543年 ヒュー・オールドカースル 英国簿記書『有益な論文』は、始めに述べたように現存しない。少なくとも30年後に修正・拡大されたメリス簿記書によるものである限り、研究の正確性は保証できないであろう。原書の探求よりは、



パチョーリ簿記論とメリス簿記論の相違、イタリア式貸借簿記法の英国への導入後、パチョーリ簿記論が、16世紀という、英国商業資本発展途上の一世紀間に、どのように進展し変化したかを知るには、メリス簿記書と比較する事によって可能になるであろう。

## 8 結び

以上のように、ここでは、1998年から2002年の5年間に、英国16世紀の簿記書を求めて英国に旅をしたまとめとして、英国16世紀の簿記書の概要について検討した。

1494年にルカ・パチョーリの『簿記論』が出版され、その影響は、ドイツ・オランダ・英国・アメリカへ、そして日本には、380年後の明治6年と明治7年に福澤諭吉『帳合之法』によって複式簿記が導入された。これは、まさに簿記・会計世界一周論といえるのである。

現在は、会計の国際化の時代であるが、会計の国際化もさかのぼれば、その原点は日本では明治6・7年の、福澤諭吉『帳合之法』であり、世界では1494年の、ルカ・パチョーリ『簿記論』であると考えたいのである。

そして、ルカ・パチョーリ『簿記論』と福澤諭吉『帳合之法』の間には、英国簿記史とアメリカ簿記史の影響があったと言えるのである。

簿記学・会計学も1つの社会科学であり、それをよく理解するためには歴史的研究が必要であると考え、英国16世紀の簿記史における、英国16世紀の簿記書の概要について検討した。

21世紀も4年目を迎えて、会計の国際化はますます進むであろうが、簿記学・会計学の原点を大事に、大切にしたいと思うのである。

## 注

- 1 Arthur.H.Woolf: A short history of accountants and accountancy, London, 1912.  
Chapter X II, English Works on Bookkeeping. p.132.  
片岡義雄・片岡泰彦訳『ウルフ会計史』法政大学出版局、1977年（昭和52年）第12章 イギリスにおける簿記文献 p.138.
- 2 小島男佐夫『英国簿記発達史』森山書店、1971年（昭和46年）、p.63-p.64.
- 3 三代川正秀「文献案内：邦文ルカ・パチョーリ研究 1878-1994」拓殖大学『経営経理研究』54号、1995年（平成7年9月）、p.172.
- 4 A.H.Woolf: Ibid, p.131.
- 5 A.H.Woolf: Ibid, p.131.
- 6 小島男佐夫、前掲書、p.73.
- 7 小島男佐夫、前掲書、p.85.
- 8 小島男佐夫、前掲書、p.96-p.97.
- 9 小島男佐夫、前掲書、p.103.
- 10 James Peele: The maner and fourme how to kepe a perfecte reconyng, 1553.  
The title page. Folio.1-12.  
Historic Accounting Literature Edited by M.F.Bywater: Volume 1  
Scholar press: London Yushodo press: Tokyo 1978  
小島男佐夫、前掲書、p.138-p.141.
- 11 B.S.Yamey, Accounting Literature, 1494-1800: A Survey. p.10.  
「世界の会計学文献 300年史」  
この論文は、雄松堂書店主催による平成元年11月10日ホテル・グランドパレスの『雄松堂書店フォーラム』での、ロンドン大学名誉教授ヤーメイ先生の講演の原稿である。  
片岡泰彦訳「会計学文献概観（1494年～1800年）」森山書店『会計』第137巻第4号、1990年4月号（平成元年4月号）p.138.
- 12 B.S.Yamey: Ibid. p.14.  
片岡泰彦訳、前掲稿、p.144.
- 13 A.H.Woolf: Ibid, p.132.  
片岡義雄・片岡泰彦訳、前掲書、p.138.
- 14 小島男佐夫、前掲書、p.166-p.167.
- 15 John Weddington: A breffe instruction, and manner, howe to kepe, marchantes bokes, of accomptes 1567. The title page. Folio.1-2.  
Historic Accounting Literature Edited by M.F.Bywater: Volume 2 Scholar press: London Yushodo press: Tokyo 1979

- 小島男佐夫、前掲書、p.168-p173.
- 16 John Weddington: Ibid. Folio.2-37.  
小島男佐夫、前掲書、p.173-p181.
- 17 John Weddington: Ibid. Folio.4. The Great Boke A Folio.1. 43.  
小島男佐夫、前掲書、p.171.
- 18 John Weddington: Ibid. The Table Alphabet A. B. Folio.1-23.  
The Great Boke A. Folio.1-43.  
The Great Boke B. Folio.1-16.  
小島男佐夫、前掲書、p.181-p188.
- 19 小島男佐夫、前掲書、p.198-p199.
- 20 小島男佐夫、前掲書、p.200.
- 21 A.H.Woolf: Ibid, p.132.  
片岡義雄・片岡泰彦訳、前掲書、p.138.
- 22 John Mellis: A Briefe Instruction and maner how to keepe bookes of accompts ...1588 .  
p.A3-p.A5.  
Historic Accounting Literature Edited by M.F.Bywater: Volume22  
Scholar press: London Yushodo press: Tokyo 1980  
小島男佐夫、前掲書、p.235-p.271.
- 23 John Mellis: Ibid. The xxv. Chapter.  
小島男佐夫、前掲書、p.271-p.272.
- 24 小島男佐夫、前掲書、p.274-p.276.

## Summary

### The Bookkeeping Books of England 16th Century

Eiichi Yoshizawa

The first exposition of the subject was issued in Venice 1494.

The book is titled *Summa de Arithmetica Geometria Proportioni et Proportionalita*.

The well known Luca Pacioli's *Summa*, of which many copies have survived includes a section on double entry bookkeeping as practiced in Venice.

The year 1543 was an eventful one in the history of bookkeeping, for it saw the introduction of Pacioli's work into three countries, translations of the *De Computis* appearing almost at the same time in Dutch, French, and English.

The English translation of Pacioli also appeared in England in 1543. It was written by Hugh Oldcastle, a teacher of arithmetic and is the first treatise on bookkeeping in language of which we possess any record.

James Peele, teacher and clerk at Christ's Hospital, wrote the oldest English bookkeeping texts which survive intact. The first, *The maner and fourme how to kepe a perfecte reconyng* 1553 was in the tradition of Pacioli, though Peele added instructions for keeping ledger accounts and used more illustrative entries.

*The Pathe-way to perfectness* 1569, a larger work in the form of a dialogue between teacher and student, included detailed instructions for ledger closings.

Peele's second book and John Weddington's *Brefve Instruction* 1567 contain the first English departures from the Italian tradition of double entry.

In the future, a certain level of standadization of Bookkeeping history will become necessary in Japanese junior colleges to promote Bookkeeping education.